

西へ大千代自ら訪ある。又右志つゝもと呼。素何うるうゆゆ  
放ぐんと怖くこれと出迎。賓うの席の定むる時。赤田大千代  
言をす。咱先遣て而息女と懇意をせし織ふつた。今日本トが  
傳説かく蹠蹠佯ふ承す。乃失望に引載す。備其門櫻の  
像が屬て。咱草々某件。睇投して一義あり。作とりよま  
貴ふの息女。預て本ト夏吉弔。と誓悟する。律ある由る。咱  
乞坐とも不承し。先別本ト小家坐。夏吉弔も咱一義と  
之。大千代不坐と止まふれり。及吉弔も約を変ド。息女と  
不通ふるべし。と咱への俠意。誠ふりづ乳の頬み。依く  
乃子媒妁と。誓姻の義と草め。貴公へ言容うる。息女と  
及吉弔へ嫁らせゆ。厥もうれし時乃す。即中行時も猶う

う。夫。只管承認あれ。と听て夏井のさへ萬を返す。  
拘惑ふと。大千代へ已推す。是雖こく只今返善と。听て帰らん  
と妻つづく。又妻つひ息夫人廢らを。既と嘗て言ふゆ。誠よ  
貌ひよのよあふ。従つも吾られとのぞ嫌うと。予へ亦自己が意の  
酒く。舉止つる縛推縦て。忍辱と云ひふる。娘が始末もぢ  
没てひぬ。御恩材もさううべ安個の者と嘗て居て。所悉を  
楚と問極め然と聞善ふ暨ちん。とりふか大千代歎もあうと  
笑ひふ投そ詰られ。乃ふ夏井へ懃く恩棄し。何まれ娘よ  
僧听せ。權ふもむき。娘せびん。ひづるふ納るは。且本山  
戈努抜群ふと。賸矣吉凡く。乃天承りた壯者あり。  
咱へ子族も多れど。智恵と有べき者多うれば。及吉弔と妻す